

発行：はつらつ編集局
 発行日：平成 26 年 1 月 1 日
 発行人：吉田 秀明
 編集人：はつらつ編集委員
 お問い合わせ：0135-23-3126



「独り立ち」へ

院長 吉田 秀明

新年明けましておめでとうございます。

昨年の 12 月は、比較的暖かめの日が多く、雪も少なめでしたが、元旦からは荒れ模様の天気が続きましたので、あまり外に出られずに寝正月を決め込んだ方もおられたのではないのでしょうか。

さて、今年はまず、昨年の御挨拶で触れさせていただいた余市病院のテーマと、その達成状況についてお知らせします。

1 「回復期リハビリ病棟」開設

これはそもそも平成 24 年秋の開設予定が、スタッフ不足のため 25 年春にずれ込んでしまったのですが、昨年 3 月から徐々に患者数を増やし、9 月から 25 床で本格稼働しています。おもに整形外科手術後の方や脳梗塞などで運動機能が低下した方が対象です。今後もスタッフを約 2 倍まで増員し、充実したリハビリが行えるようにしてまいります。

2 救急に不可欠な医療機器の更新(総事業費約 2 億円)

最新鋭高機能 CT(64 列)と MRI(1.5T)を昨年 11 月から 12 月にかけて更新しました。これにより検査時間が大幅に短縮され、救急の場面はもとより、新たに心臓疾患や血管疾患の診断にも大きな威力を発揮しています。とくに MRI はガントリー(トンネル)が短いため、腰や膝の撮影なら「閉所恐怖症」の方でも大丈夫という優れものです。道内にはうちを含めて 2 ヶ所しかありません。

3 大規模停電時等における「病院機能維持」

とくに独自電源の確保(複数年計画)

地域で大きな役割を担っている病院には、独自の電源が必要であるとの認識から 300 kw 級の発電装置の整備を企画しています。現在の自家発電機や非常時バッテリーも老朽化しつつあり、なんとか数年で目処をつけたいと考えております。

4 オーダーリングと電子カルテの導入準備(総事業費約 2 億円見込)

今年が目玉事業として、昨年末に準備委員会を設けました。機器選定や設備工事、スタッフの訓練などが必要ですので、1 年後の稼働を目指します。

次に、数年来考えていた地域医療振興策について。

余市病院ではこれまでに初期研修医 140 名、医学部学生 40 名ほどを受け入れてきました。彼らとの関わりから、今後も地域の医師は増えることは望めないというのが、現時点での私の結論です。

一方、海外とくにアジアで研究や臨床に活躍されている方々には、帰国した際には地域医療を支援したいと望まれる方が多いことがわかりました。一昨年の春にたまたま 3 ヶ月間勤務してくれた森先生(御自身がタイの大学に留学中の一時帰国)との出会いで、構想は一気に現実味を帯びてきました。そこで昨年 11 月に「国際地域医療支援センター準備室」を設け、具体的な準備を進めています。

いったいなにをするのかというと、余市病院が前述の海外留学されている方々の、一時帰国などの際の安定した受け皿となることで、留学継続における不安とくに経済的問題と、臨床の腕を鈍らせたくない／上達させたいという希望をかなりの程度にサポートできます。

一方、余市病院は、繋ぎながらも医師数を確保できることに加えて、地域医療に対するモチベーションの高い方々に来てもらうのですから、診療のレベルが大きく上がることが期待されます。また、当院あるいは他の施設勤務の医師や看護師が、海外経験を希望する場合には具体的なしっかりした支援が可能となります。余市のような地方にいても海外経験ができるということは、閉塞感に陥りがちな地域医療の現場に一石を投じることになるでしょう。

最後に、余市病院は御存知のように 4 つの「公的病院」の一つです。

あとの 3 つは、赤十字、済生会、JA 厚生連、ですが、それぞれ全国的な大組織で、運営もしっかりしています。比べて、私達の「北海道社会事業協会」はその名のとおり、北海道だけのローカルな組織です。設立から 90 年を越える歴史をもつとはいえ、運営の基盤はきわめて脆弱で、知名度というかブランド力は低く、多くの方々に「協会病院,what?」であり「協会病院,why?」なのが現状です。そこでまず、協会病院を「北海道の地域医療の大きな担い手」と、明確に位置づけ、そのために 7 つの病院が具体的な計画を立てることが必要と考えています。

余市病院は「国際地域医療支援センター」を実現させることによって、この面でリーダーとなることを目指します。そして可能な限り早期に同センターを独立組織として、フットワークの軽い運営を行い、地域医療全体のあり方に対する一つの提案にしたいと考えています。

平成 26 年 元旦

余市病院の求めるもの

患者様の笑顔 地域への貢献 自らの幸せ



(12月) 救急件数 外来受診260件 うち入院57件 救急車来院86件 うち入院39件